



成田ロータリークラブ

ロータリー： 変化をもたらす 週 報



国際ロータリー2017～18 年度会長 イアンH. S. ライズリー

第 2780 回例会 平成 30 年 1 月 26 日(金)

- ◇ 点 鐘 成田 温 会長
- ◇ ロータリーソング 我らの生業
- ◇ 四つのテスト 笹子 恵一 会員
- ◇ ニコニコボックス



南日 隆男 会員：プロ野球のキャンプが 2 月 1 日から始まりますが、昨年に引き続き今年も ANA が北海道日本ハムファイターズのアメリカ・アリゾナキャンプのチャーター便を受託しまして、明後日の日曜日、20 時 15 分に、選手・球団関係者およびマスコミ関係者の約 130 名が搭乗した NH1986 便、ボーイング 777-300ER 型機がフェニックススカイハーバー国際空港に向け出発いたします。今年は清宮幸太郎君が搭乗いたしますので、マスコミが大量にゲートに来るのではないかと考えております。私も頑張ってみ送りたいと思います。



角田 幸弘 会員：小池会員のところの三つ目の保育園“みらい保育園”が昨年開園して、昨日私が歯科検診に行ってきました。わざわざ小池会員の奥様が出迎えて下さいました。行って見てびっくりしたのですが年少さんばかりで、年中、年長のお兄さんお姉さんがいないのですが、開園したばかりですので当たり前のことです。キラキラした瞳のこの子たちが年中、年長さんになる頃には、みらい保育園ももっと賑やかになることでしょう。みらい保育園の発展を願ってニコニコさせていただきます。

- ◇ 会長挨拶 成田 温 会長
省略

- ◇ 委員会報告 石川 憲弘 委員長

次週 2 月 2 日の例会はハラスメント事案について報告などを怠った場合の国際ロータリー型の処置、千葉大学セクハラ対策について内規規定委員長の設楽会員に研修をお願いしてありますのでご参加よろしくお願いたします。従いまして明治安田生命保険田渕会員の卓話はまたの機会になります。田渕会員よろしくお願いたします。



・ロータリー財団・米山記念奨学委員会 遠藤 英一 委員長
堀口会員より米山記念奨学へ 100,000 円の寄付をいただきました。
ご報告いたします。



・S. A. A. 小寺 真澄 会員

本日U-シティホテルで18時より委員会を行いますので、関係者の方はご出席をお願いいたします



・広報・公共イメージ委員会 甲田 直弘 リーダー

「ロータリーの友」記事紹介です。以前うちのクラブにメーカーキャップに来ていただきました茅ヶ崎湘南ロータリークラブの松宮様の記事が載っております。職業奉仕についての記事ですが、夏目漱石の事について色々書いてありますので、皆様お時間あるときにご一読いただければ幸いです



・ガバナー準備室 堀口 路加 会員

例会終了後、ちどりで第3回目のガバナー準備室会議を行います。



《医療情報》 橋 昌孝 会員



元耳鼻科医の橋です。インフルエンザ患者が今週は先週よりもさらに増え、先々週400先週800今週は1,643だそうです。うがい手洗いをしっかりやってください。もしかかったら安静にすることが大事です。今流行っているのはA型です。これは2月の中頃になると落ち着きます。その後B型が増えてきます。B型はA型ほど激しく増えません。4月の初めぐらいまでは十分にご注意いただきたいと思います。

◇ 幹事報告

<回覧>

- ・例会変更 佐原、多古ロータリークラブ
- ・ロータリー米山記念奨学会 財団設立50周年記念誌
- ・地区大会参加者用送迎バスのお知らせ
- ・なりた環境ネットワークより環境学習会の参加者募集のご案内

<連絡>

- ・2月のロータリーレートは1ドル=110円です。
- ・メディア懇談会、新酒を楽しむ会 出欠表
- ※メディア懇談会の出欠締切は1/30



～～ 職業奉仕月間卓話～～

職業奉仕 石橋 菊太郎 リーダー

ロータリーの綱領という言葉 皆さんご存知でしょうか？これはもともと「ロータリーの目的」という意味です。綱領があってさらにロータリーの職業奉仕宣言というのもございました。2010年の手続要覧（3年に1度、規定審議会の開催後に発行）にはまだロータリーの綱領・職業宣言という言葉が載っています。ですが2013年、突然「目的・行動規範」ということで文章が変わっています。そして奉仕の理想（Ideal of service.）が、奉仕の理念という言葉に変換されています。しかし、原文は全く変わっていません。なぜ、なのでしょう？日本語訳で手続要覧上での変化です。翻訳はR. I. 日本支部シニアリーダーチームというのがあるのですが、そこでガラッとこのような形に変えられたということがロータリーの綱領・職業奉仕宣言があったヒストリーとして、前座としてここで話しておきます。



職業奉仕 芦谷 源一 会員



みなさんこんにちは。今回、卓話をさせていただく芦谷です。よろしくお願ひします。

昨年の9月に、初めて自己紹介で卓話をさせていただいてから、まだ半年も経っていないのですが、まだ入会2年目の私に職業奉仕について勉強をなささいという趣旨だと思ひのですが、ご指名をいただきました。ただ、ご指名をいただいたものの、非常にやっかいなテーマだなど、何をどう話せばいいのか困ったなどというのが正直なところでした。

が、何とか自分なりにまとめて参りましたので、ちょっと眠くなってしまう内容かもしれませんが、お時間をいただければと思ひます。

今回は、前半で私が考える職業奉仕についてのお話をさせていただき、後半で同じ職業奉仕委員会であらっしゃる橘会員にご提供いただいた「私の職業奉仕」をご紹介したいと思ひます。私が卓話で頭を抱えていたところ、橘会員が参考になればとご協力いただいたものです。大変ありがたい申し出をいただき、感謝しております。この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。

先ず、私が考える職業奉仕ですが、職業や奉仕という言葉は当然ですが私も知っていますし、その意味もそれなりに理解をしているつもりです。ただ、職業と奉仕がくっついた職業奉仕という言葉はこれまで聞いたことがありませんでした。職業と奉仕ですから言葉に違和感はありませんが、さてどんな意味なのかと聞かれば、よくわかりませんというのが正直なところではあります。

そこで広辞苑で調べてみましたが、社会奉仕はありましたが職業奉仕は載っていませんでした。

それで、広辞苑で職業と奉仕、ロータリークラブでそれぞれ調べてみますと、職業とは、日常従事する業務、生計をたてるための仕事、生業。奉仕は、献身的に国家、社会のために尽くすこと。ロータリークラブは、社会奉仕をモットーとする国際的文化団体と出ていました。このロータリークラブが社会奉仕をモットーとするというのは、どうなのかなと、多少勉強した中では、ここは職業奉仕ではないのかなと感じましたがいかがでしょうか？

まず、職業奉仕を理解する上で、私なりに2つのテーマに整理してみました。

1点目は社会奉仕との違い、2点目は職業奉仕という言葉の意味です。

最初に1点目の社会奉仕との違いですが、一般的に普通の人がイメージしている奉仕というのがこの社会奉仕ではないかと思います。社会奉仕をやはり広辞苑で調べてみますと、社会福祉に寄与するために努める行為と出ています。具体的には、生活に困っている方や介護が必要なお年寄り、身体障害者等社会的な弱者に対する援助、奉仕活動ということでしょうか。非常にわかりやすいと思います。ただ、この表現ですとちょっとその意味が福祉の分野に限定的になりますので、もっと広く社会一般に寄与する奉仕活動と考えるといいのかなと思います。

一方で、職業奉仕となると、ストレートに考えると「自分の職業を通して社会に奉仕すること」であると考えますが、自分自身の職業を通そうが通すまいが、社会に奉仕するので、この奉仕活動は広く考えれば、社会奉仕の大枠の範囲に該当するものではないかと思います。となると、社会奉仕と職業奉仕との違いがわかりにくくなります。では、どのように区別したらいいのでしょうか。

そこで考えたのが、その奉仕活動が誰に利益をもたらすのかということ。受益者が誰になるかということで区別ができるのではないかと思います。

奉仕活動によって、受益者が自分以外の地域の人々、あるいは地域社会の場合は、社会奉仕であると思います。

一方、奉仕活動によって、受益者が自分自身に及ぶ場合は職業奉仕ではないかと思います。

ちょっと理解しにくいかもしれませんが、具体的事例でお話します。

私は今船橋市に住んでいますが、地域には、地元の子供が中心に参加して行われる地元神社の子供祭りがあります。そのお祭りのお手伝いとして、お菓子や飲み物を配ったりする活動を行ったことがあります。もちろんお金を貰う訳ではありませんし、直接自分に利益があるものではありません。これはあきらかに受益者は子供達であり地域になりますから、社会奉仕であると思います。

一方で、私は京葉銀行に勤務しておりますが、以前こんな事例がありました。お取引先で野菜を加工する会社がありまして、その会社は受注が拡大して、今の工場では処理のキャパオーバーとなっていました。また、設備も古いので今後商品の管理面において問題が出るとの課題を抱えておられました。そこで、十分なスペースを確保できる土地と、しっかりとした工事を行える、信頼できる設備業者をご紹介しました。そして当然銀行で不動産購入や機械設備資金のご融資も行い、お取引先にも大変喜んでいただきました。これは、お取引先や地域への貢献になりますが、同時に銀行自身にも利益があります。融資が発生することで銀行に金利収入がもたらされる、自分自身が受益者になる事例であり職業奉仕に該当するのだと思います。

ちょっとわかりにくい事例では、京葉銀行では県内の学校に出向き、金融に関する授業を行っています。実は、成田高校附属中学校でも実施させていただいたのですが、これは学校の要請に基づいて実施しているもので、当然無料で行っているものです。受益者は生徒であり学校であり、広い意味では地域であると思います。従って、社会奉仕の範疇となります。ただし、この授業はあくまで京葉銀行の行員が行っており、このことは、学校はもちろん生徒も知っていることです。この活動により、結果として京葉銀行は、学校や生徒から信用や信頼、親近感等を得ることに繋がっている部分もあるのではないかと思います。従って、今後、京葉銀行に口座を開設したり、給与振込口座に指定したりといったことに繋がることもあるかもしれません。また、学校に出向いた行員の印象が良かったら、京葉銀行に就職してみようということに繋がるかもしれません。するとこれは、受益者が銀行自身になりますから、ここは職業奉仕に該当するのではないかと思います。

こうみえてくると、社会奉仕と職業奉仕は、関連のある一対のものであると考えてもよいのかもしれない。

利益を受ける人、受益者が一体誰になるのか？ここに着目して判断をすると、行っている奉仕活動が、社会奉仕なのか或いは職業奉仕なのか、区別がしやすいのではないかと思います。

ます。これで、漠然とした奉仕活動のイメージが多少見えてきたような感じがしますが、いかがでしょうか？

次に職業奉仕という言葉の意味についてです。

先ほどもお話しましたが、職業とはお金を稼ぐための手段です。私たちが生きていくための所得を得る手段であり、これは自分の為のものです。一方、奉仕とは世のため人のためのものでありまして、すなわち自分以外の人のためのものです。

このように全く正反対の2つの言葉が1つになって、職業奉仕と叫んでいるために非常に解りにくいのだと思います。先程お話しした通り、職業奉仕は広辞苑にも載っていないロータリー独自の言葉です。そして、職業奉仕という言葉は、職業すなわちお金を稼ぐことであり、奉仕、すなわち世のため人のために尽くすことです。要するにロータリーの職業奉仕とは、職業を営むことが、世のため人のための奉仕となるということかと思えます。ただここが、職業奉仕の解りにくい厄介なところかなとも思います。

そこで、わかりやすく理解するために、職業を営む心も奉仕の心も同じ一つの心であり、言い換えれば、世のため人のために奉仕する心をもって職業を営むと考えたら良いのではないかと思います。もっと具体的には、自分のお金を稼ぐことについて、人を泣かせるようなお金の稼ぎ方をしてはいけない、非人道的、非社会的な行為をしてお金を稼いではいけない、世のため人のためになるようなお金の稼ぎをしなければならぬ、ということであり、もう少し言うと、自分の職業に対して強く倫理性を求めているのではないかと思います。

職業奉仕とは、職業倫理の活動で、ロータリー活動は職業倫理を勉強し追及する活動であるとも言えるのではないかと思います。

ですから、国際ロータリーの定款のクラブの構成という項目をみますと、クラブは善良な成人であり、職業上及び地域社会で良い評判を受けている会員によって構成されるとあります。また、ロータリークラブに入会する際には、会員として相応しいかどうかの面談審査があるのではないかと思います。

いろいろ解りづらいお話をしてしまいましたが、最後に、職業奉仕を簡潔に表現するとしたら、世のため人のために奉仕する心をもって、職業に取り組むということではないのかなと思います。いかがでしょうか？

但し、こんな偉そうなことを言っていますが、具体的に自分自身はどうかと考えると、もちろん反社会的なことや非人道的なことはしていないと思っていますが、現実には、本部から与えられた数値目標に雁字搦めであり、どのように計画を達成していくかに日々四苦八苦しているのが現状です。

ですから、どうしても銀行から評価をされる仕事にしか目が向かない傾向にあります。この点が正直ジレンマを感じる部分でもあります。ただ、銀行はお取引先や地域の成長や発展があつての銀行の成長だと思えますし、銀行のスタンスも最近は特にお客様目線の仕事をすると強く本部からも指導があります。今後も、少しでも世のため人のためになるような仕事をしていければと思います。

以上が、前半の私が考える職業奉仕の話でした。

いろいろなお見解があり、私の話もおかしいだろうという部分も多々あったかと思いますが、ご容赦いただきたいと思えます。

それでは、次に橘会員の私の職業奉仕についての発表をさせていただきます。全文をご紹介します時間がないため、私が編集をさせていただいたことをご了承いただきたいと思えます。

昭和53年成田空港が開港しました。それに伴い成田市及び周辺の人口が急増して、橋耳鼻咽喉科医院の患者数もうなぎ上りに増えました。

昭和54年4月、それまで3年半勤務していた成田赤十字病院を退職し、橋耳鼻咽喉科医院に就職して父とともに働くことになりました。冒頭に述べましたように開港以前は150人前後の患者数が増加し、1日300～400人の患者さんが来院するようになりました。

朝7時30分に診察を開始して昼休みはとりますが、夜8時～9時まで休みなく働きました。私は診察が終わると家で食事をして風呂に入って寝るだけですが、スタッフは勤務を終えて家に帰り食事、入浴をした後寝て、朝は7時30分の診察開始までに出勤しなければなりません。大変な重労働でした。私の診察はスタッフおよび家族の協力に支えられてこそ可能であり、この協力にはどんなに感謝しても感謝しきれません。

私の父は「開業医は患者さんが困っている時には夜中でも診てあげるのは当たり前だ」と言って、患者さんの要望があれば夜中でも診察していました。父は成田ロータリークラブのチャーターメンバーでしたので「職業奉仕」を、身をもって私に示していたのであろうと考えています。

私が大学時代夏休みに帰宅すると、父は常にロータリーの文献を読み原稿を書いていたのを記憶しています。ロータリアンたるもの常にロータリーについて学び、職業奉仕、社会奉仕をしようと努めていたのかと思っています。

そのような父の跡を継いだ私は、毎日300～400人の患者さんを診察した後の夜中にも、救急の患者さんが来院すると診察していました。最初はまだ若かったので頑張ることが出来ましたが年とともに夜中の診察はきつくなりました。

十数年経ったある夜、近くの消防署から「診てほしい患者さんがいる」と電話があり受けることにしました。患者さんの来院をうつらうつらして待っていますと、1時間ほどして消防署から再度電話があり「今日は様子を見るそうです」……。その時は眠いので「ああそうですか」と言い、寝ました。翌日消防署に電話して「来院しない患者さんは紹介しないでほしい」と言ったところ、次のような返事でした。「私たちは紹介するだけで、行く、行かないは患者さんの責任です」、昼間の疲れが取れない状態で夜中の診察をしている私には大変ショックな返事でした。消防隊員は8時間交代で勤務していますので、勤務が終わった後の時間はゆっくり休むことが出来ますが、私はある意味、24時間体制で診察しています。確かに来院するかしないかは患者さんの問題ですが、「迷惑をかけて申し訳ない」と一言、言ってほしいと思いました。そこで「今後はそちらからの紹介はお断りする」と告げて電話を切りました。

正直なところ、24時間体制で診療を行うことは一人の医者では不可能なことです。「それでは皆で、交代でやれば良い」とのご意見があると思いますがこれがなかなか厳しいのです。内科の開業医は数が多いので夜間輪番が可能で、現在、成田市夜間急病診療所では、平日は夜7時から11時まで、日曜、祝日は朝10時から夕方5時、さらに夜7時から11時まで交代で内科・小児科の医師が診察しています。輪番制に参加している内科・小児科医はおおよそ月1回の当番で済みますが、我々耳鼻科医が輪番制で診察する場合は医師数が少ないのでそのようには行きません。

耳鼻科医は成田市夜間急病診療所が輪番制を始めたとき、4人の開業医しかいませんでした。隣の市を入れても5人であり、現在は2人の耳鼻科医が閉院しましたのでさらに少なくなりました。成田市では息子と私の2人で診療、学校健診(約40学校)などを頑張っています。とても交代で夜間の診療を行うのは不可能です。しかし現在、急病診療所で内科・小児科の先生方が診療してくれているおかげで、当院での急患は減少して楽になり、内科・小児科の先生方に感謝しています。

次に医師会活動についてお話したいと思います。昭和62年から平成12年までの13年間、印旛市郡医師会立成田看護高等専修学校の運営に関与しました。

医師会立看護学校担当の参与、理事を経て運営委員、そして平成8年から11年までの

4年間は校長を仰せつかりました。

校長に就任した際、教務の先生方をお願いしたことは、生徒を教育するとき「役に立つ准看護師」を育ててほしいということでした。

「単に資格を取るだけではなく、患者さんの役に立たなければならない」ことを肝に銘じてほしいと生徒たちにも話をしました。

校長は年3回、式辞を述べなければなりません。入学式、戴帽式、卒業式です。校長になって考えたことは、看護師の神様であるナイチンゲールが看護についてどのように考え、どのように行動したのかを知ることでしたが、幸い、ナイチンゲール書簡集を手に入れることができました。

ナイチンゲールがその生涯で看護について各方面の看護学校などに書いた手紙は1万通以上であり、これが書簡集として残されていました。

看護についてナイチンゲールは次のように述べています。

私たち看護するものにとって、看護とは、年ごと月ごと週ごとに<進歩>し続けていないかぎり、まさに<退歩>しているといえる、そういうものなのです。

経験を積み積むほど、私たちはますます進歩していくことができるのです。あなた方が私たちとともに過ごした一年間の訓練で得た進歩といえども、訓練を終えたく後に>毎年為し遂げていかなければならない進歩に比べれば、無に等しいといえるでしょう。自分のことを「私はいまや<完全>なそして<熟練>した看護師であって、学ぶべきことはすべて学び終えた」と思っているような女性は<看護師とは何か>をまったく理解していない人であり、また<これからも>絶対に理解することはないでしょう。彼女はすでに退歩して<しまつて>いるのです。

このナイチンゲールの言葉は、我々ロータリアンにとっても大きな示唆を与えてくれると思います。ロータリーは常に進歩しています。CLPしかり RLIしかり、我々成田ロータリークラブは2790地区で最初にCLPを導入しました。そして当時19あった委員会を現在の5つの委員会に減らしたことによって形は整いました。しかし現在、全員参加を目標としているCLPを十分に行っているかと自分に問うと、そのような状態にはないと言わざるを得ません。

現在もし、成田ロータリークラブの誰かが、自分はCLP、RLIそしてロータリーについて十分に理解して何でも分かっている、これ以上学ぶ必要はないと自負しているならば、ナイチンゲールが言うように、すでに退歩していると言っても言い過ぎとは言えないのではないのでしょうか？

我々ロータリアンはロータリーについて知っていることは勿論大切ですが、「超私の奉仕」をめざして自分の職業を通じて社会に、そして自分の周りの人々に奉仕することの方が大切ではないのでしょうか？

また、ナイチンゲールは次のようにも言っています。「一つの組織体にとって最も肝心なことは、その中の誰もが他者の仕事を妨げないで、他人の仕事を助けながら自己の仕事を遂行することなのです」と。

お互いロータリアンであるならば他者の仕事を妨げないで、他人の仕事を助けながら自分の職業活動そしてロータリー活動を行いたいものです。

そしてナイチンゲールは、更に次のように言っています。

私は自分の生命の最後の時まで毎日毎日努力して学び続けることでしょう。「足失いしそのときは、足なきままに戦えり」と民謡でうたわれているように、他者を看護しながら学ぶことが不可能になったときには、看護されながら、つまり<私を>世話してくださる看護師さんの看護を見ながら学ぶことでしょう。

看護師の神様と言えるナイチンゲールが死ぬまで学ぶと言い、しかもベッドの上で療養しているときには自分を看護してくれる若い看護師から学ぶということが私に強い衝撃を与えました。

学校での入学式、戴帽式、卒業式にこのナイチンゲールの言葉を生徒たちに話し、そして「役に立つ准看護師(士)」になって患者さんたちの為になる看護をするように叱咤激

励しました。

校長として一番嬉しかったのは、平成12年に閉校するまでの最後の4年間、准看護師資格検定試験の全国模擬テストで、全国470校中4位、3位、61位、2位だったことです。教務の先生方が適切な指導をし、それに応えて生徒たちが頑張ったお蔭でこのような結果を得ることが出来ました。

看護学校に關与するようになった時代から外来診療が終わると、夜、外出することが多くなりました。患者さんが発熱しているとき、中耳炎で鼓膜切開したとき、鼻出血があったときには診察が終わった後患者さんに電話します。その後の様子を聞き、困っているときは指示することが出来ますので、安心して外出できるからです。この電話は診察が終わると現在でも行っています。

さて、これからは、橘医院で現在どのような治療をしているかをお話したいと思います。

橘医院では、午前中の診療が終わると「申し送り」をします。目的は前の日の午後から当日の午前中までの各自のミスを含めて皆で共有することです。勿論ミスをした本人には反省してもらいますが、ミスの中でも大きな問題についてはそれがどのように起こったのか？その原因は何か？どのようにすれば良かったのか？を皆で考えて良い方法を見つけて皆で行います。自分は起こしていないミスでも、他のスタッフの発言を聞いて、その様なことが起こることを意識してミスしないようにしてもらいます。我々が行っていることはまさにPDCAそのものです。

また、申し送りのときには反省ばかりではなく、良かったことも皆で探します。昨日まで泣いていたお子さんが「僕今日から泣かないで治療するよ」。嫌な治療を頑張って耳の聞こえが良くなった。風呂に入らないで治療したらすっかり良くなった。いろいろあります。

小さいお子さんが頑張って良くなったのは本人の努力があったからですが、何よりお母さんが頑張って診察に連れて来てくれたお蔭です。そこでお母さんのご苦勞を労いスタッフ一同「おめでとうございます」を言います。橘医院一同で患者さんを励まし、お子さん達の成長に感激し、笑顔で仕事出来る毎日に感謝しています。このように、小さい子供たちが自分から治療をしたいと思うのは我々スタッフ一同が安心安全な場を提供しているからと考えています。

以前、例会で卓話していただいた高柳和江先生が提唱する「一日5回感動し、一日5回笑う」を目標に、先ず自分を好きになり、周りの人を幸せに出来るように感謝、感動の毎日を送りたいと願っております。

私は、平成15年、64歳のとき胆石を患い、その後手術して胆嚢を摘出することになりました。さらに永年の無理がたたって高血圧症、脳梗塞になりました。現在でも症状が残っています。物が二重に見えるようになり、上下左右は良いのですが、指を斜めに動かしますと指が二重に見えています。さらに平成24年12月初めのある日、朝起きたら左腕が上がらなくなりました。開業してからトータル100万回以上、左腕を上げ下げして使った結果、脊椎症性脊髄症になりました。筋電図を測ったら筋力が20%しか残っていないと診断されました。20%しかないのか？とがっかりするのか、でも20%残っているのだから、リハビリを頑張ろうと考えるのかでその後の経過は全く異なります。

幸い、妻が電気刺激で筋力を回復する方法を新聞記事から見つけ、リハビリしている開業の整形外科で理学療法士の先生が日本医科大学千葉北総病院でその治療をしていることをインターネットで探して下さいました。電気刺激を行うリハビリを始めて約1年6ヶ月、徐々に左腕を使った診察が出来るようになり、さらにハンドルにノブを付けて自動車の運転も出来るようになりました。このように頑張っている自分自身を好きになり、リハビリを支えてくれる妻をはじめ周りの人々に感謝して、小さい子供たちとのハイタッチから元気を貰い、ロータリー活動が出来るようになったことを心から感謝している毎日です。

◇ 点 鐘

成田 温 会長

2018年1月31日発行
成田高等学校 I.A.C.

第30回インターアクト国外研修 in 台湾

昨年の11月18日(土)から21日(火)にかけて、第30回インターアクト国外研修が台湾・台北で行われました。第2790地区全体で32名の参加者のうち、本校からは6名のインターアクトクラブ生徒が参加しました。以下に生徒たちのレポートを掲載します。

1年 遠藤海莉クラウドディア「台湾研修旅行に行ってみて」

今回は国際交流の一環としてインターアクト部で、台湾の台北に3泊4日間滞在しました。初めて予定表に目を通したとき、家族と行く観光だけの旅行とは内容が全く違うということ強く実感し、不安や緊張を感じながら今回の研修旅行に挑みました。台湾で会う生徒達はもちろんのこと、日本から台北へと一緒に向かう生徒の人たちも知らない人だということは私にとって大きいハードルに思われました。

そんな沢山の不安を感じながらの1日目。飛行機と緊張での疲れもあったのでしょう。日本人の生徒達はあまり言葉を発していませんでした。そんな私たちを台湾人の生徒達は笑顔で迎え入れてくれました。その笑顔にとっても安心したのを覚えています。2日目は午前中に講義を受けた後、班行動で夜市を回りました。講義では日本と台湾との間の強い繋がり、歴史について詳しく学びました。夜市は自由行動だったので好きなものを見たり、食べたり、聞いたりしました。私は主に台湾人とは英語で会話したのですが、夜市で話しているうちに冗談を言い合えるほど仲良くなる事ができました。3日目、台湾滞在最終日。午前中に数々の有名な建物を見学しました。午後はずっとこの日の為に準備をしていた出し物の発表日、そう、さよならパーティーがありました。どの班の出し物も大盛り上がり。私たちの班の順番は1番最後でした。なぜか責任感を感じながら迎えた発表。台湾人の笑顔を見ていたらお別れが寂しくなり、まだここにいたい、もっと沢山話したいという気持ちが溢れ思わず涙がこぼれていました。そんな私をみて涙を流してくれた友達を見て、「ああ、こんな短い間でも、言葉が通じなくてもこんなにも仲良くなる事ができるのだ」と感動しました。

今回の研修旅行で学んだ事は数えきれないほど沢山ありますが、特に心に残っているのは国籍・性別・言語・年齢は仲良くなるにあたっての壁にはならないということです。日本に帰った今でも、男女年齢関係なく連絡を取っています。もう1つは自分から行動を起こす事の大切さです。待っているだけでは大きな事は成し遂げられません。自分から動く事で変化を起こす事ができるのです。

この度はこのような素敵な機会を与えて下さり本当にありがとうございました。今回の経験をこれからも生かして行きます。

2年 翁沢詩慧「台湾語学研修に参加して」

今回の台湾語学研修は自分の想像を2,3倍も超えた素晴らしい体験でした。

関わった全ての方々が優しく気さくで素敵な国民性だなと感動しました。街の雰囲気もゆったりしていてそれでいて生き生きしており、私の理想とする街像そのものでした。

今回の研修で台湾が大好きになりました！台湾の学生の皆さんはフレンドリーでとても積極的に話しかけてくれ、お陰で私もすぐ仲良くなれました。中国語を喋れたのもありますが日本団の中で1番色んな人と仲良くなれた自信があります。



色々考え、準備し盛り上げ、片付けをして下さった彼らに感謝の気持ちしかありません。短い間でしたが忘れられない思い出と大切な友達を貰いました。本当にありがとう。

私は、元々将来は国際的な仕事に就きたいと考えていましたが今回の研修でその思いがさらに深まりました。もっと色々な人と関わり、自分の視野が広がるような体験をもっともっとしたいです。それと同時に日本というセカイに閉じ込められたら国際世界で生きていけないなと思いました。日本の「常識」「美德」は必ずしも良い方向になるとは限らないからです。周りに流されず自分の意見をしっかり持っていきたいです。



最後に今回の台湾国外研修を実現して下さった日本と台湾のuncleの皆様、通訳の方々、暖かく見守ってくださった3480地区の皆さん、支援をして下さった成田ロータリークラブの皆様、本当にありがとうございました。

行ってよかった、と心から思えるような旅でした！叶うことでしたらもう1度3480地区の皆と日本で会いたいです。彼らがしてくれた事を私達が返したいです！是非ご検討下さい。

2年 川又えみか「日本と台湾」

今回の台湾への国外研修で、日本と台湾との文化の違い、台湾が日本のためにしてきたことを深く学べたような気がします。台湾の高校生はフレンドリーで気さくに話しかけてくれる人が多く、食事や活動が楽しくできました。

台北では雨の降る日が多いらしく、あいにく初めの三日は雨、帰る直前にやっと晴れてくるといった具合でした。ですが、二日目に訪れた寧夏夜市の夜景は、雨だったからこそよりきれいだったと思います。夜市では、同じグループの台湾の人がたくさん食べ物、飲み物を買ってきてくれて、いろいろなものにチャレンジすることができました。台湾の夜市で食べた料理は日本のものとは味付けが違って、少し甘いような独特な味がしましたが、どれもとてもおいしかったです。飲み物は、(少し寒かったのでホットの)タピオカミルクティーはもちろん、台湾ならではの西瓜やパイアのシェイクもおいしかったです。

また、中正(蒋介石の本名)記念堂では衛兵の交代を見ることができました。近くで見る機会はなかなかないので、よい思い出になりました。台湾では徴兵制がとられていて、満十九歳の男子は四か月の軍事訓練を受けることになっています。実はこの時初めて台湾の徴兵制のことを知ったのですが、同時に韓国、北朝鮮でも徴兵が行われていることを知りました。北朝鮮の兵役は世界でも最長の十年間です。今は日本国内外でいろいろなことが起きていますが、平和な世界を作っていきたいです。

2年 木坂美亜「初めての台湾」



私は今回初めて台湾に行きました。最初、話は英語で通じるだろうと思っていましたが、思っていたよ

り英語を話せない人が多く、中国語なんて分からない私にはどのようにコミュニケーションをとれば良いのか分かりませんでした。しかし、現地の学生達がスマホの翻訳機能や手振り身振りで一生懸命こちらに伝えようとしてくれるので、私も恥を捨てて、どんなやり方でも伝わるように頑張ろうと思うことが出来ました。気持ちが相手に伝わったのが分かったと、とても嬉しくて達成感までありました。たとえ、同じ言語ではなくても、「伝えたい」という気持ちがあれば仲良くなれるんだと感じました。

台湾と日本の歴史や関わりを学び、知らないことだらけで驚きました。近年、台湾のスイーツ店が日本にできたり、旅行者が増えたりと、台湾を身近に感じるようになりました。しかし、その中で台湾と日本が昔から繋がりがあった事を知る人は少ないと思います。台湾の方々は日本を好いていてくれます。私達ももっと、台湾との関わりについて学び、より良い関係を続けて行くことができれば良いと思います。

今回の国際交流を通して、台湾の方々は明るく、親切で温かい人達なのだと思います。私は元々、大学では英語以外の言語を学びたいとっていて、中国語も視野に入れていたので、今後のことを考える良い機会になりました。こんなに充実した四日間過ごせたことに心から感謝します。

1年 鈴木麻友「国外研修を終えて」

11月18日から4日間の間、国外研修で台湾に行ってきました。私はこの研修でたくさんのことを学びました。

まず、台湾人と交流することですぐに気づいたことがあります。それは、本当に日本が大好きで誰に対しても親切だということです。言語が違うなかで会話することは難しく、私たちは英語を話したり日本語と中国語の翻訳アプリを使って交流を深めました。相手が頑張ってくれて私の伝えたいことを理解しようとしてくれたり、日本語を話してくれてとても嬉しかったです。そして、私はまだまだ英語の力が足りていないと感じました。

次に台湾の文化についてです。私たちは など、いろいろな観光名所を訪れました。台湾が親日ということは知っていたのですが、建物や文化など日本に深く関係していて驚きました。

今回、私は初めての海外で日本人の知り合いも少なく、最初はとても緊張していました。しかし班のメンバーや台湾の方々は年齢関係なく接してくれてとてもいい環境のなか4日間過ごせたと思います。最後に行ったさよなら台湾パーティーではよりいっそう台湾と日本の距離が縮まったと感じました。そしてまだ日本に帰りたくないと思うほど台湾が好きになりました。この4日間を終えて、わたしは一回り大きくなった気がします。この経験もこれからの人生に活かして行きたいです。台湾のみんな、一緒に参加したインターアクトのみんなそしてロータリーの皆様ありがとうございました。



最後に、台湾と日本の距離が縮まったと感じました。そしてまだ日本に帰りたくないと思うほど台湾が好きになりました。この4日間を終えて、わたしは一回り大きくなった気がします。この経験もこれからの人生に活かして行きたいです。台湾のみんな、一緒に参加したインターアクトのみんなそしてロータリーの皆様ありがとうございました。

2年 藤澤祐香「台湾国外研修を終えて」

私は今回の国外研修を通して、台湾と日本の間を結んでいる深い信頼関係を体感するとともに、国際交流における一つの難しさを知りました。

私はこれまでに英語圏三カ国を訪れたことがありますが、アジア圏の外国は今回の台湾が初めてでした。今まで台湾語に触れる機会はなかったので、現地の学生との会話は当然英語で行うことになるだろうとっていました。ところが実際そうではなく、悔しながら言語の壁に圧倒されてしまい、思うようなコミュニケーションをとることが出来ませんでした。私はそこで、



物事を伝える絶対的な手段がないことへの不安感を初めて体感し、また同時に、言葉が通じない状況でもあらゆる手段を試して「伝えよう」と努力することがいかに大切かをよく理解しました。日本から一緒に来たインターアクターの中には、台湾の学生に日本語で話しかけ、その他はアイコンタクトと身振り手振りだけでコミュニケーションを図ろうとした方がいました。後で彼女に聞くと彼らは英語よりもよほど日本語の方が理解しているとのことで、私は同じ方法を試せなかったことをとても後悔しました。日本語など絶対に通じないだろうと思わずに勇気を出して一歩踏み寄ってみれば良かったのでしょうか。



私は元来人見知りせず、積極的に人とのコミュニケーションをとれる方だと自負しています。しかし国境を越えていざ言語の壁に直面すると、いわゆる「コミュ障」になってしまうようです。これは、将来国際社会に貢献できる人間になりたいと考えている私にとって大きな弱点です。

台湾で過ごした三日間は本当に有意義で、参加させていただけたことに感謝の気持ちで一杯です。台湾に来なかったら前述したような反省点を見出すことも出来なかったかもしれません。次にまた国際交



流をする機会があれば、必ず成長した自分を以て臨みたいと思います。

行く前はみな不安も大きかったようですが、成田ロータリークラブの例会にお招きいただき、皆様から暖かい励ましのお言葉をかけていただいたことで勇気が湧いたそうです。この良い経験を今後の活動に生かしてもらいたいと思います。ありがとうございました。

出席表

会員数	出席義務者数	出席数	欠席数	出席率	前回補正
72	69	34	35	49.28%	78.26%

MAKE UP CARD

氏名	月日	クラブ名
松本 大樹、伊藤 隆治、香取 竜也、伊藤 英徳、田淵 公敏 永井 秀和、諸岡 靖彦、高橋 晋、喜久川 登、橘 昌孝 石川 憲弘、林 作雄、高根 完、藤崎 礼子、村嶋 隆美 谷 直知、矢野 理恵、諸岡 正徳 各会員	1月19日	退会防止の為の食事会
喜久川 登、高橋 晋 各会員	1月23日	東広島ロータリークラブ
齊藤 三智夫 会員	1月23日	地区RLI推進委員会会議
平山 秀樹 会員	1月24日	千葉北ロータリークラブ
矢野 理恵 会員	1月25日	川崎ロータリークラブ
諸岡 靖彦、堀口 路加 会員	1月27日	地区財務委員会
諸岡 靖彦、堀口 路加 会員	1月27日	地区諮問委員会
諸岡 靖彦、堀口 路加、成田 温、石川 憲弘、長原 正夫 設楽 正行、石橋 菊太郎、松田 泰長、佐瀬 和年 小寺 真澄、菊地 貴、近藤 博貴 各会員	1月27日	諸岡ガバナー年度準備室会議

事務局 〒286-0127 成田市小菅 700
成田ビューホテル内
電話/FAX 0476-33-8786

例会場 成田ビューホテル
電話 0476-32-1111
例会日 金曜日 12:30
例会出欠連絡先(直通)
電話 0476-32-1192 FAX 0476-32-1078